

当文教厚生委員会に付託された案件については、3月11日は午前9時30分から、16日は午後1時30分から、22日は午前9時30分から、23日は午後2時30分から、いずれも委員会室において、委員全員出席のもと慎重審査しましたので、その経過と結果をご報告申し上げます。

初めに、議案第13号中、当委員会に分割付託された案件については、補足説明の後、質疑に入り、主な質疑として、

始めに、福祉部所管分では、

機構改革について、令和4年から新たに健康課を新設することとした目的や経緯はどのようなか。とに対し、

目的は、成人期から高齢者までの市が保有する健診や介護データなどを活用して、予防と健康増進に取り組むためであり、健康寿命100歳を目指すこととなります。

経緯は、現状において採用困難な保健師等の専門職配置を見直す中、健康課を新設して集約することで、少しでも効率的・効果的に業務の実施が可能となるのではと考えたためです。とのこと。

歳出、3款1項1目、地域福祉推進事業のうち、アウトリーチ継続的支援事業について、CSW等の人員を増配する考えはあるか。また、重層的支援体制整備事業の本格実施となる令和5年に向けどのような取り組みを行っていくのか。とに対し、

令和3年度の実績をみると、現体制では人員不足であると考えていますので、令和5年度の本格実施に向けて適正な人員配置を検討していきます。また、教育部門との連携も重要であると考えていますので、併せて調整を進めてまいります。とのこと。

同事業のうち、なんでも相談窓口のPRマグネットサインの購入について、マグネットサインの購入数や運用内容はどのようなか。とに対し、

マグネットサイン100枚分の予算を計上しました。運用としては、「ふくし相談窓口」の周

知を図るため、相談窓口にご協力いただく事業所にマグネットサインを配付し、各事業所が所有する自動車に張り付けてもらうことを考えています。とのこと。

同日、生活困窮者自立支援事業のうち、緊急ショートステイ措置費について、前年度と比べて予算額が大きく増えた要因は何か。とに対し、

当該費用は現年度の利用実績をもとに予算を算出しています。令和3年度は、措置件数は前年並みであるものの、コロナ禍の影響で就労先の確保が困難となり、措置期間が長期化しているため、増額して計上したものです。とのこと。

同項2目、長寿訪問等事業及び高齢者健康祝事業について、これまで長寿訪問として実施していた事業を、「長寿・結婚周年の祝い」と「健康祝い」という二つの事業に分けた理由は何か。とに対し、

これまで長寿のお祝いとして行ってきた取り組みを、「健康寿命の延伸」という目標に沿うよう事業の見直しを行ったためです。とのこと。

4款1項2目、認知症高齢者等個人賠償責任保険料について、当該保険の内容や算出根拠はどのようなか。また、どのように周知を行うのか。とに対し、

保険の内容は、補償上限額を3億円とし、掛金は一人あたり1,810円で、年間100人の加入を見込んでいます。

周知方法は、市報、ホームページをはじめ、ケアマネージャー等の事業所や、相談や手続きに来庁したご家族に対し、積極的に周知していきます。とのこと。

次に、健康子ども部所管分では、

歳出、3款2項1目、子どもの貧困対策事業のうち、子どもの生活・学習支援事業について、事業への出席率を上げるためにどのような取り組みを行っていくのか。

また、現在は学習支援会場が3か所で運用しているとのことだが、会場を増やす考えはないのか。とに対し、

出席率が低い児童・生徒に対して、電話等で連絡して出席を促しています。その他にも、オンラインで授業を行うなど、児童・生徒に合わせた方法で学習支援を実施していきます。

学習支援会場は、ボランティアスタッフを今以上に増やすことが難しいため、現段階で会場を増やすことは考えていません。とのこと。

同目、市立花園保育園民営化事業について、民間の保育園に対し市としてどのように関与していくのか。とに対し、

年 1 回実施される愛知県の監査に合わせて市職員も同行することで実態把握を行うとともに、園長会議や主査会議等の場でも情報交換を行うなど、適切な保育運営の実施に向け複数の機会を捉えて関わっていきます。とのこと。

同項 2 目、放課後児童クラブ施設整備事業について、夏休み等の児童の居場所に関するニーズは把握しているか。また、施設の整備をどのように進めていく予定か。とに対し、

ニーズについては、放課後児童クラブを利用する保護者を対象にアンケートを実施しており、約 3 割の方が長期休暇のみの利用を希望していることが分かりました。

施設の整備予定は、各中学校区に 1 か所の施設整備を予定しており、令和 4 年度では半田中学校区と青山中学校区にて整備を実施したいとするものです。とのこと。

同項 6 目、ファミリーサポート利用促進事業について、クーポンを配付することで利用者が増え、援助会員が不足する事態が想定されるが、どのように対応していくのか。とに対し、

援助活動に対する報酬の引き上げや、活動時の安全性の向上などの改善策を講じつつ、幅広い世代の方に対して改めて勧誘活動を実施してまいります。とのこと。

4 款 1 項 1 目、妊婦・産婦・乳幼児健康診査事業のうち、新生児の聴覚検査について、受診率の更なる向上のため、どのように取り組むのか。とに対し、

新生児の聴覚検査は、これまで自費負担としていましたが、令和 4 年度から母子健康手帳の交付時に補助券を配付し、検査方法に応じて 5, 0 0 0 円又は 3, 0 0 0 円の補助を行うことで、さらに受診率を向上させたいとするものです。とのこと。

同項 2 目、予防接種事業のうち、子宮頸がんワクチン及び D T 2 混合予防接種について、市内の小中学校に通う児童・生徒については、学校経由で案内を配布しているとのことだが、接種率向上のために、これまでの勧奨方法を見直す考えはあるか。とに対し、

従来から、接種案内や未接種の方への勧奨通知は学校経由での配布を行ってきましたが、他市町での事例も参考にするなど、接種率を上げるために、より良い勧奨方法を研究していきます。とのこと。

9 款 6 項 2 目、総合型地域スポーツクラブハウス改修事業について、改修を行うにあたり施設が利用できなくなる期間はあるのか。とに対し、

現段階では、改修作業を実施する時期は決定していませんが、可能な限り改修作業が施設の利用の妨げとならないよう、作業時期等の調整を行いたいと考えています。とのこと。

同日、大学地域連携スポーツ推進事業について、本事業の実施目的は何か。また、令和 4 年度から取り組むこととした理由は何か。とに対し、

本事業の目的は、各地域スポーツクラブの発足から長い年数が経過する中で、地域ごとに活動の差が生じてしまっている問題などを解決するためです。

令和 4 年度から取り組む理由は、学校部活動が令和 5 年度以降、段階的に地域部活動となるため、その受け皿のひとつとして対応したいと考えているためです。とのこと。

次に、教育部所管分では、

歳出、9 款 1 項 3 目、いじめ・不登校対策事業について、令和 4 年度に新たに予算化したものはあるか。また、スクールソーシャルワーカーが 1 名では不足すると思うがどのように対応するのか。とに対し、

令和 4 年度は、教育相談員を 1 名増員する人件費を新たに計上しています。

スクールソーシャルワーカーは、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーと連携をとることで対応していきます。とのこと。

同日、日本語初期指導事業について、令和3年度と比べ予算を増額した理由は何か。また、令和3年度の実績を踏まえた課題や、その改善にどう取り組んでいくのか。とに対し、

増額の理由は、令和3年度は2学期から事業を開始しましたが、令和4年度は年度当初から事業を実施するための予算を計上したことによります。

課題は、日本語初期指導教室を実施する学校の児童だけで定員を満たしてしまい、他校の児童が受講できていないことです。今後は、オンラインでの指導等も含めて方策を考えていきます。とのこと。

同日、ICT教育推進事業について、令和4年度の取り組み内容と、本事業の実施目的はどのようなか。とに対し、

令和4年度は、半田市の現状分析を行い、半田市に相応しい教育DXについて調査研究を進めていきます。

目的は、「タブレット端末の安心・安全な活用」、「学校でのデジタル化・クラウド化」、「学校での先端技術の効果的な利活用」について、検討するものです。とのこと。

同款2項1目、小学校小規模改修事業について、板山小学校の非常階段は錆付きがひどく、現在は封鎖され使用できない状態にあると認識しているが、改修等を行う考えはあるか。とに対し、

現在、封鎖している理由は、児童が非常階段で遊ぶことが無いよう対策したものであるため、有事の際には利用可能です。ただし、錆付きが進んでいるため、改修を検討していきます。とのこと。

同款5項3目、図書館資料整備事業のうち、電子図書の貸し出しについて、令和4年度から新たに取り組むことはあるか。また、令和3年度の実績を踏まえた課題はあるか。とに対し、

これまででは、市内在住者のみ利用が可能であったものが、令和4年度中には、市内在学・在勤の方についても利用が可能となるよう準備を進めてまいります。

課題は、図書館用の電子図書が少ないため、書籍の種類に偏りがあることと、世代によって

利用者数に差があることです。とのこと。

同日、企画展開催事業について、博物館における企画展の展示内容はどのように決定しており、令和4年度の企画ではどのような工夫をしているのか。とに対し、

企画展の内容については、各年度の旬なものや、市民の関心が高いものを学芸員が中心となって企画しています。

令和4年度は、昨年10月に師崎層群の化石発掘に関する記事が新聞でも取り上げられ、世間的にも注目を集めているため「知多半島の化石」という題材での展示を考えています。とのこと。

同項7目、新美南吉記念館管理運営費について、令和3年度に実施した委員会の提言を踏まえて、令和4年度に予算計上しているものはあるか。とに対し、

矢勝川の彼岸花を守っていくボランティア活動の維持に必要な仕組みを作るため、令和4年度では、重労働である矢勝川沿いの草刈り作業に対してボランティア謝金を出すことで人員確保に寄与したいとするものです。とのこと。

同款6項3目、学校給食センター管理運営事業について、令和4年度では異物混入件数を減らすためどのように取り組むのか。とに対し、

令和4年度予算では、食材検査等手数料、害虫駆除委託料を増額して計上しているほか、委託事業者と打ち合わせを行い、作業手順の見直しを行うなどの改善に取り組んでいきます。とのことでした。

その後、討論を省略し、挙手により採決した結果、委員全員をもって、原案のとおり、可と認めることに決定しました。

次に、議案第18号、議案第19号、議案第20号、議案第26号、議案第28号、議案第29号及び議案第30号の7議案については、それぞれ補足説明の後、慎重審査し、討論を省略し、議案ごとに採決した結果、7議案とも委員全員をもって、原案のとおり、可と認めることに決定しました。以上、ご報告申し上げます。